

*ポレーシェとは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



ディードゥフさん来日 講演決定!!

特集!! BG奮戦記 (P4~P7) も必見!!

菜の花プロジェクトも三年目を迎えました。五年計画ですから、ちょうど折り返し地点ということになります。ここまで、さまざまな困難に遭遇しながらも、一つずつ乗り越えてくることができたのは、ウクライナに強力な助っ人がいるからに他なりません。ジトミル国立農業生態学大学のディードゥフさんです。

本プロジェクトスタート時から、「土壌浄化実験（菜種の栽培からその分析まですべて）」は、ディードゥフ・チームによって進められ、着々と成果を上げています。その一部は、本誌（河田さん連載60・61号）でも紹介されました。

一方の「BDF・BGプロジェクト」は、ナロジチ行政の協力態勢がいまひとつ整わないため、なかなか計画通りには進みません。そんな中、私たちのプロジェクトを強力に支持し、六者協議の場でバイオ燃料PJのマネージャーを引き受けてくれたのも、ディードゥフさんです。

その彼が日本にやってきます。彼は放射線生物学の研究者。専門家の目から見た原発事故による放射能汚染の実態と、本邦いや世界初公開となる土壌浄化実験の分析結果報告をやさしく語っていただけるだろうと、今からワクワクしています。皆さまも、ぜひ万障繰り合わせて、会場に足をお運びください。（詳細は、次ページを参照してください。）

さて、後半戦に向けて支援のお願いです。本プロジェクトに着手できたのは、幸いにもボランティア貯金など大口の助成をいただけたことによります。しかし、助成金には当然のことながら制約が付きもの。これを補い、現地の要望に素早く柔軟に対応するためには、自前の資金が不可欠です。皆さまのサポートをよろしくお願いいたします。（小牧崇）



<視察中のフランス人女性たちと>

資金不足!! 緊急!! サポーター大募集!!

ひと口 1,000円(何口でもOK)で

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町 137 1-10
 チェルノブイリ救援・中部 代表：小牧 崇
 郵便振替：00880-7-108610
 TEL/FAX：052-836-1073（月・水・金 10:00～17:00）
 ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>



「ニコライ・イリイチ・
ディードゥフ」氏
1958年10月13日
(50歳)
リヴネ州コストーピリ地
区ロキトネ村 出身

2009年 8月 「ディードゥフ氏講演会」のご案内

日 付	スケジュール (予定)
7月30日(木)	セントレア着
31日(金)	名古屋視察 夕方～ 歓迎会
8月 1日(土)	東京視察
2日(日)	伊那市：講演会「ロッジ吹上」(13:30～)
3日(月)	「ハイカス」・「信州大学農学部見学」・「BDF 作業所」の視察。
4日(火)	「駒ヶ岳ロープウェイで千畳敷」または「木曾路奈良井宿」を散策。
5日(水)	京都市：講演会「京都精華大学」(18:00～)
6日(木)	京都視察
7日(金)	奈良視察
8日(土)	名古屋市：講演会「なごやボランティア NPO センター(伏見)」(13:30～) 夕方～ 送別会
9日(日)	セントレア発 帰国

略歴：

農学修士、シトームル国立農業・生態学大学地域エコロジー問題研究所所長、

環境保護・自然安定利用講座准教授

1979～1984年 「シトームル農業大学畜産学部」にて学ぶ。同大卒業後、各種の農業関係企業で働く。

1989年 「シトームル農業大学大学院家畜給餌・飼料製造講座卒業」その後、同講座にて助手として働き、農作物及び家畜への放射線の影響について研究

1990年 「キエフ国立農業大学」にて修士称号を得る。修士論文：「家畜の給餌及び飼料の生産技術」

1991～1996年 「ウクライナ農業・生態学アカデミー放射線生態学研究ステーション」を組織。同ステーション所長を務める。その間、チェルノブイリ事故起源の放射性物質の食物連鎖（土壌－植物－動物－農産物）について研究。

1994年 上記ステーション家畜給餌・飼料製造講座准教授の称号を得る。

1996～1998年 国立農業大学科学研究・国際関係担当副学長

2002年～ シトームル国立農業・生態学大学地域エコロジー問題研究所所長、同大生態学部環境保護・自然安定利用講座准教授

主な研究分野は、「放射性物質による汚染の条件下における、農業生産の生態学的に安全なシステムの開発」、及び、「チェルノブイリ原発事故以降、放射性物質により汚染された地域の除染の方法論」である。チェルノブイリ事故の直後より、「コロステン地区の表土の放射線モニタリング」「シトームル州の無条件（義務付）移住区域の複合的な放射線状況評価」を行ってきた。ウクライナで最も汚染の激しい無条件（義務付）移住区域に属する地域のリハビリテーションに関する、国家プログラムの科学研究責任者を務める。放射性物質により汚染された農地の再肥沃化の一連のメカニズム・システム開発に携る。IAEA や国連開発プログラムのチェルノブイリ復興開発プログラムによるチェルノブイリ事故の影響最小化プロジェクト、またドイツのハノーファー大学・ワルシャワ農業大学・スウェーデン農業大学（ウプサラ市）との共同研究プロジェクトに参加している。

80以上の科学研究・教育方法論関連著作があり、うち3つはブックレットと教科書である。

毎年のことだからと足を運ばなくなった方
正会員じゃないからと遠慮している方
とにかく、すべてのポレーシェ読者の皆さまへ
総会&チェル救デーのお知らせです。

日時 6月27日(土)

午後1時30分～午後4時

場所 ウィルあいち(会議室5)

名古屋市東区上堅杉町1番地 TEL 052-962-251

- 地下鉄「市役所」駅 ②番出口より東へ徒歩約10分
- 名鉄瀬戸線「東大手」駅 南へ徒歩約8分
- 基幹バス「市役所」下車 東へ徒歩約10分
- 市バス幹名駅1「市政資料館南」下車 北へ徒歩約5分

第一部 2009年度定期総会

- 2008年度の事業報告および決算報告
- 2009年度の事業計画および予算

第二部 現地報告

■原 富男さん講演

(バイオガス専門家/救援・中部理事)

4月よりミニバイオガスプラント建築工事のためジトーミル・ラスキ村に滞在。

■遠藤雄二さん講演

昨年のスタディ・ツアーに参加。その後、菜の花プロジェクトに加わる。

4月より原さんとともにラスキ村で工事に携わる。

■宮腰吉郎さん制作 DVD 上映

現地の住民やエネルギー問題の事情調査のため、4月よりジトーミルで活動中。傍ら、ビデオ撮影もこなす。現地で編集した最新映像を紹介。



<原 富男さん(左)と宮腰さん(右)>

特集!!

BG (バイオガスプラント建設) 奮戦記!!

…ラスキ村より愛を込めて (ラスキ通信抜粋)

原 富男、遠藤雄二、宮腰吉郎、竹内高明

09.04.23 「まずは、まきから??」

4月22日、無事、ラスキに到着しました。私達4人が案内された宿舎は台所の他に4室ある一軒家です。到着早々直面したことは、寒さです。暖房はスチームが入っておらず、パチカしかありません。このままでは寝られないので、夜中に外に出て、燃やせそうな薪を探し、工事のために持参したノコギリで切り、パチカに火をつけました。ようやく火がつき、落ち着いた時には0時を回っていました。夜中寒くて2度も起き、仕方なく朝5時に外に出て、薪を作って燃やしました。まず薪の調達をしなければ何事も始められません。霜の降りたラスキより第一報でした。



09.04.29 「バイオガス装置を待ちかねた牛に原料をまかれた」

朝8時に現場に行ってみると、掘削した現場の周りにはたくさんの牛のうんこが散乱しておどろきました。新しいものに興味があるのか、それともバイオガス装置完成前に原料だけでも配達しようとしたのか、えらいことになっていました。落ち枝を積み上げバリケードを作ったものの、まだ足りず、杭を打ち周囲にひもをめぐらせました。

09.04.30 「通電は伐採から…コンクリートレンガ型枠完成」

「スコップも持ってきて!」ということで持参しましたが、砂利1.5立米と砂1立米を手でトラックに載せる。遠藤さんは、「2.5立米もの砂利が人の手で積めるわけないだろう!」と怒りました。



09.04.24 「設置場所視察と資材調達開始」

バイオガス設置場所は農業企業体の建物まで100mの小高い地点としました。

09.04.28 「朝5時掘削開始 地下水が出てしまった」

早朝4時に起きて朝食抜きで現場に行き、掘削機(重機)の到着、掘削が始まりました。発酵槽の成形を始めようと穴の底に降りてみると、ジワジワ水がしみ出てきました。グズつく前に、底面に板を敷き詰めることにしました。また丸太から製材することになります。発泡スチロール、セメントミキサーなど大物はそろったものの、塩ビパイプ類が金曜配達になり、スケジュールがめっちゃくちゃです。





09.05.01 「コンクリートレンガ一回目成型完了。捨コン6割終了。サブリュク氏・マリノフスキー農大理事長ら来訪」

日本ではコンクリートは扱うものの、ミキサー車で配達してもらうことが常で、僕も遠藤さんも、ミキサーを使ったことがなかったの、農業企業体の人に親切に教えてもらって助かります。コンクリートブロックの第一回成型が無事終わりました。発酵槽の捨コン打ちをして、約6割を終えました。生コンを運ぶのは二輪車なので、かなり体力を消耗します。遠藤さんは体が鉛のようだ、と言っています。サブルク氏、農大理事長、ディードゥフさん他、行政関係者2名が現場見学に訪れました。短時間バイオガスの説明をしました。二輪車を使い始めて一日で舟が凹み、丸ノコも使いづらく、その面からもこの国の置かれている状況を見ることができます。

09.05.02 「捨てコンクリート終了・馬車でポロトヌィツヤに行きました」

皆疲れ気味なので起床8時、作業開始9時にし、捨てコンクリートの残り部分をやりました。宮腰さんが取材に行くので、遠藤・原の3人は、馬車に乗ってポロトヌィツヤを目指しました(注：竹内は食器洗いと掃除に専念していた)。馬車のスピードというものは心地良く、次に車を買って替えるときは2頭立ての馬車にしようと思います。車検もなく燃料代も安いので、これからは馬車でしょう。遠藤さんは終始ニコニコで、このような経験は得がたいものだったと、熱っぽく話していました。時に休みは良薬です。

09.05.04 「ブロック、発酵槽フーチング生コン投入 遠藤・竹内がんばる」

2回目のコンクリートブロックの成型と、発酵槽底のフーチングへの生コン投入をしました。生コンは、遠藤さん・竹内さんコンビで作られ、僕が発酵槽の底で、枠の中に入れて行く作業を繰り返しました。工事中に毎日子どもたちが見に来ています。今日は6時終業し、例によってドラム缶湯を沸かし、体を洗いました。



09.05.06 「キリチャンスキー・チュマク氏来訪 バイク買いました」 バイクはおそらく中国製で、3,500グリヴナでした。

09.05.07 「現地労働者大いに働く。遠藤、明日帰国」

体が疲れているので休みたいところですが、今日は現地労働者の初出勤日なので、「エイッ！」と仕事開始を決めました。ヴァロージャさんとニコライさんは体が大きく、余裕で全ての仕事をこなしました。これより遠藤さんの慰労会なので失礼します。

09.05.08 「発酵槽加温装置を取り付け、壁ブロックも積み始めました」

朝、遠藤さん、竹内さんはラスキを出発しました。僕も一緒に帰りたいかったのですが、都合により断念しました。加温パイプの取付ができたのは、宮腰さんのおかげです。この作業が出来ないと全員遊びになるので、宮腰さんにバイクで部品を買いに行ってもらったのです。本当にバイク、いや宮腰さんは役に立ちます。



09.05.11「排出槽型枠・断熱材敷込み終わる」

我々の家の畜舎に住みついている親子の白い犬が、今までは警戒して近づいてこなかったのが、宮腰さんが本日とうとう、ジャガイモと肉の煮物で母犬を手なずけることに成功しました。

09.05.13「強風の中発酵槽ブロック積み完了。投入口下準備開始。牛防衛戦 2 連勝中」

ブロック積みの職人が来て、僕なら 1 日で 2 段程度しか積めないところを、5 段全部積んでくれました。発酵槽のパイプ位置は、何の修正もせずピッタリと決まりました。この段階で少し先が見えてきた工事現場です。

09.05.14「強風・雨・停電に翻弄された一日」

仕事を終え 7 時頃、宮腰さんが農業企業体の搾乳を撮影に行くというので、ついて行きました。たくさんの牛は外の囲いから牛舎に移動し、それぞれのストールに行儀よく並び、順番に搾ってもらっていました。仔牛も 7~8 頭いてかわいいものです。仕事とは違ったことを見るのは楽しいことです。

09.05.10「排出槽、循環排出パイプの取付け終わる。子どもが仕事の手伝いせがむ」

朝方は上着が必要で、9 時過ぎから気温が急に上がり、僕らは夏場の犬状態です。見学に来た子ども達と話をしました。11 歳と 13 歳の男の子で、「手伝わせて!」というので、パイプのジョイントを運んでもらったりしました。そのうちジグソーで合板を切らせてみると、器用に使うので、感心しました。日本の同じ年頃の子も達では、日常生活の中で仕事をしていないので、このように上手には切れないでしょう。



09.05.15「投入口型枠設置、排出槽型枠は 8 割。バリケード戦、本日突破される! 決意新たにしてから 3 勝 1 敗」

宮腰さんは、夕方 7:30 現在、家の目の前の畑で、農業企業体に勤めている人の自家用の大麥の種まきが終ると同時に畑宴会が始まり、彼は情報収集の目的をもって参加しております。

09.05.16「排出槽型枠作りと固定。牛との攻防 3 勝 2 敗! またやられた」

09.05.20「排出槽生コン投入、あわや破裂も、8 割完了。牛との攻防 4 勝 4 敗、敗れるも宮腰氏のファン闘光る!」

現場に着くと、いつもの牛の落し物が点在しており、まいったなーでした。そこに「落し物担当」の宮腰さんが登場、瞬間すくい技を発揮し、瞬間に片づけたのは感動ものでした。これをファン闘といわずなんというべきでしょうか。この働きは、長く 3 人とラスキの牛達に記憶されるでしょう。排出槽の生コン投入を開始しました。北側の外側で「膨れ」が始まり、古い電線をロープ代わりにして、テコの原理で型枠の形を修復しました。





09.05.26「掘削機こず、水こず、労働者こず、これ3こずという。牛との攻防6勝7敗、2日連続バリケード防ぐ」

本日、掘削機による発酵槽の埋め戻しの予定でしたが、何の連絡もなく掘削機はきませんでした。また埋め戻しに備えて頼んでおいた労働者もきませんでした。更に生コン用の水も配達されず、お手上げ状態の現場でした。

09.05.27「発酵槽 埋め戻し完了、アーチ支持テーブルできる。牛との攻防7勝7敗、3連続 牛に陣地を譲らず」

アーチ支持テーブルを学生に作って貰い、丁度それが出来上がった11時頃、突然掘削機が登場、埋め戻しをしました。外壁の断熱材を調べたところ、4枚盗まれたことが判明しました。学生によれば、断熱材は泳ぐときのボード用に子どもが持っていったのではないかとのこと。また新しく買ったハンマーもなくなっており、大人も子どもも心底信用できない面があり、現場完全立ち入り禁止にしなければならず困ったことです。



90.05.23「ドーム型枠作りほぼ終わる。エポキシもほぼ終了。排出槽の支持棒外し。学生お昼で帰る。牛との攻防4勝7敗、新説実施1日目は負ける」

14歳の男の子が興味深げに見ているので、手伝ってもらいました。毎夕現場に来て、仕事を見て覚えるセンスのある奴です。端材でベンチと梯子まで作り感心。ウクライナには何も無いけれど、未来を支える子どもが居ることを嬉しく思う一コマでした。

09.05.25「発酵槽パイプ周りコンクリート固定/断熱材取り付け。ドーム部品作り。牛との攻防5勝7敗。2日連続快適現場」

発酵槽の周りに断熱材(発泡スチロール)を巻きました。5センチの厚さのものを3枚重ねて、外壁に押し付けるわけですが。ここではガムテープが手に入らないので、こちらで売っている幅広の透明テープを使用しました。しかし粘着力が弱いので仮固定し、埋め土の土圧で固定することにしました。宮腰さんには、ドーム部品を作って貰い終了しました。



09.05.28「発酵槽、アーチ組み立て進む、本日も停電。牛との攻防 なぜか4連続防ぐ」

夢の中で、投入パイプと循環パイプのジョイントが弱いのではないかと疑い始めました。圧力が加わった場合、漏水する可能性もあり、ゴムパッキンに加え接着剤も施しましたが、それでも心配で、ジョイント部をコンクリートで固めることにしました。

09.05.29「発酵槽型枠ほぼ組み立て完了。牛との攻防9勝7敗、というより最近こない…」

10時頃雨が上がったので現場に行き、ドーム型枠の上板を学生に加工してもらい、取り付けました。学生は週末なのでジトームルに帰り、宮腰さんと二人で残りの板を加工し、組み立て終わりました。

ウクライナ三度目の新入り ラスキ村工事レポート

(遠藤雄二)

4月22日、深夜ラスキ村の農家に着く。かなり寒く、氷点下であると思われる。寝具が三人分しかなく、仕方なく床に寝ることになり、おまけに毛布もなく、カーテンを外し、持ってきた服を重ね着して朝まで丸くなる。23日、朝日が昇り外に出るとマイナス6度。霜が降りた大地は気持ちよく、自分が想像していたとおりの田園風景が広がっていた。25日、現場の確認をして今後の仕事の段取りを原氏と打ち合わせ。掘削の機械は27日と決まっていたので、その日までにできることと、木材の発注を農業企業体のベロノーシコ氏に話すと、木材は買うのではなく、自分たちで製材機を使い引かねばならぬという。このことが、これから先に起こる数々の困難の始まりであった。しかし、自分で製材してみると意外と面白く、しかも必要な材を自由に調達できるメリットが生まれ、このおんぼろ製材機は後々重宝することになる。この後も、工事を始めるにつれ、日本では考えられないことが次々と起こるが、僕にとって数多くのいい経験となる。しかし、27日から本格工事に入る予定が28日にずれ込み、自分がラスキ村を出る5月8日まで



<右から二人目が遠藤さん>

に、どれだけできるのかと気持ちばかり先行して、工事自体は思う様に進まず、地下水位がかなり高いためのトラブルなどがあり、5月7日まではやはり発酵槽本体もできず、引き続き現地に残る原さんに、かなりの負担を残すことになってしまった。わずか2週間の工事中に、いろいろなことが起きた。子ども達が、ゴミとしか思えない発泡スチロールの切れ端を欲しがったり、屋根がつぶれた資材置き場から、セメント一袋が盗まれたり…。また、僕が帰る一日前に人を雇うことになるが、賃金が70グリブナ/日(約900円/日)であった。このようなラスキ村の状況を見ると、今回は実験目的のミニバイオガス装置といえど、セメントを50袋以上使い、村の人は到底手のでないコンパネや断熱材を大量に使い、その他を入れると、かなり莫大な金額となる。彼らにとっては、やはり雲の上の装置と思われる。しかし、各農家の裏には自家菜園が広がり、多くの家畜などもいて、ここラスキ村はほんとに豊かな土地である。バイオガスやBDFにも適地と思われる。今後、ジトーミル大学の参入により、この地区のバイオガスBDFが広まり、本当に豊かな未来が実現することを願わずにはいられない。

スヴィトラーナさんに 補聴器を！

ジトーミル州社会・心理福祉センターに、23歳の女性スヴィトラーナ・ヴィクトリヴナ・ゲイネより、支援の依頼があったことをお知らせします。同センターの専門家たちは、スヴィトラーナを社会に適応させることの困難さを理解しました。彼女は、精神的・身体的な障害を抱えており、自力で生活の困難を克服し、自らの問題を解決することができません。スヴィトラーナの子ども時代は暗く、喜びに恵まれないものでした。彼女は子だくさんの家庭に生まれました。両親はアルコール飲料に溺れ、何日も家に戻らぬこともあり、本当の親らしい愛情を示すことがありませんでした。…小さな子ども達は、寄宿制学校に入れられました。4歳の時から、スヴィトラーナにとって、肉親が傍らにいない別の人生が始まりました。幼時の耳の病気と手術のため、スヴィトラーナの聴力は低下しました。そのことで、彼女はより孤独になりました。リュバル実業学校を卒業して、果実・野菜栽培師の資格を得ましたが、その専門に合った仕事を見つけることができませんでした。彼女は現在、福祉事務所から紹介された製紙工場の清掃係として働いています。ウクライナの経済危機が原因で、給料は支払われなくなりました。難聴のため、もっと給料のよい仕事につくことは不可能です。…アパートの家賃を払うこともできません。この困難な時期を生き延びる手助けをするべき肉親も、彼女にはいないのです。センターで寝泊りしている間に、彼女は難聴の人たちのための補聴器が存在していることを初めて知りました。…

以上のような手紙が、チェル救に届いています。デジタル式の補聴器入手のための支援要請(365ドル=約36,500円)です。チェル救では、個人的な支援を行わない事としていますし、本来なら現地関係者の支援努力を期待するところですが、ポーシェ読者の皆様で、スヴィトラーナさんに少しでもご支援可能な方は、事務局までご一報ください。

(山盛)

チェルノブイリデー'09

4月26日、“名古屋働く人の家”での「チェルノブイリデー'09」には、約50名の参加者がありました。会場の1階には、活動紹介とスタッフの友達のお母さんたちが作ったウクライナの家庭料理“ボルシチ”と“天然酵母パン”。ボルシチは、前日からじっくり煮込んだ絶品です。初めて食べる人は興味津々、大きな鍋いっぱい作ったのに、あっという間になくなりました。



3階の会場では、村の人達や風景の**写真パネル展示**。壁一面に飾られた約50枚のパネル写真に、ウクライナを訪れたことがある人は、懐かしさを感じるように見つめていました。初めてウクライナの様子を見る人も、23年経った現地の豊かな緑と元気な子どもたちを見て、優しい笑顔になっていました。

また、今年のクリスマスカード・キャンペーンに向けた**カード作りコーナー**では、おしゃべりしながら、カードを作成してもらいました。去年とは違う雰囲気のカードが、たくさんできました。このカードで、子どもたちにますます元気になってもらいたいと思います。DVD上映会では、ナロジチでのドキュメント映像をエンドレスで流し、日本人スタッフの奮闘ぶりを紹介しました。

今回のチェルノブイリデーは、私たち（山本&黒瀬）二人が最初から手掛けた初めてのイベントで、企画構成すらわからなかったのですが、構想を練り、運営委員とともに準備をしてきました。その結果、多くの方々に楽しんでもらうことができ、とてもよいイベントになったと思っています。（山本梨恵）

【企画準備】 23年目の「慰霊祭」を、4月26日に「チェルノブイリデー'09」として行うことが決まり、担当も山本さんと私（黒瀬）に決定。「では！」と企画を練り始めましたが、いざやりたいことを出してみると、多すぎて一日に収まりきれない！ということで、何回も話し合っって企画や構成を決めました。前日から泊り込みで行った準備では、飾りつけや料理作り、チェル救のオリジナルキャンディーの袋詰め作業に追われました。イベントへの期待と「いよいよ明日！」という興奮で、わいわい楽しく、あっという間に過ぎていきました。

【講演会】 MSD社（山形・天童市）武田社長と河田さんの講演もありました。チェルノブイリ原発事故の事や「菜の花プロジェクト」、バイオディーゼルの精製を実際にウクライナで行った感想など、参加者の中には一生懸命にメモをとる姿も見えました。そして、会場のスクリーンに映し出されたウクライナの人々に、みなさんとても興味深く見入っていました。たくさんの方が興味を持って参加して下さったこと、またその興味をさらに深めている姿から、このイベントの意味を心で感じる事ができました。



「とどけ鳥」と「菜の花」の金太郎飴(P12参照)

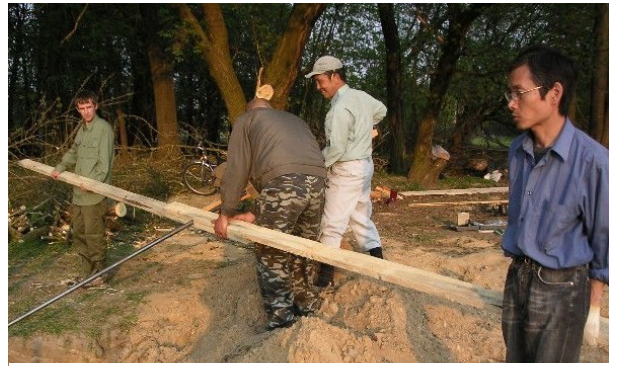


【武田さんデモ】 悪天候で、到着が危ぶまれていた武田さんの精製機搭載トラックが会場に着いたとき、まずその大きさに驚きました！ 廃油精製のデモンストレーションには、参加者もずらっと並んで、お話を耳を傾けていました。実際にウクライナで行ったように、機械に精製前の油を入れる場面は、なかなか見られない光景だけに息を呑むようでした。そしてできあがった油は、透き通っていて、茶色い廃油からできたとは思えないくらいきれいでした。

【スタンプラリー】 会場では、ウクライナ写真館やDVD上映会などの企画をまわって、台紙にスタンプを押してもらい、全部たまとチェルノブイリ救援・中階特製のかわいいキャンディーがもらえるスタンプラリーも行いました！ 大人の人からお子さんまで、スタンプラリーに参加して下さいました。キャンディーをもらうために、一目散にスタンプを押してもらいに来る小さな子がとてもかわいらしかったです。（黒瀬愛見）

竹内さんのウクライナ便り

先号の原稿を書いた後も、ウクライナの政財界では例によりあれこれニュースがあったのですが、私はナロジチ地区ラスキ村でのひと月近くの滞在、また私用での数日間の日本への一時帰国などで、それらにつき詳細に把握するいとまがありませんでした。で、今回は、4月19日の正教の復活祭前後の連休に滞在したヴィンニツァ（ジトーミル州の南に隣接する同名の州の州都）で見たN.ピロゴフ記念博物館の話を書かせていただきます。ピロゴフ（1810–1881）はモスクワ生まれのロシア人ですが、高名な外科医・解剖学者・医学教育者であり、1847年にはカフカースでの戦役で医学史上初めてエーテルによる麻酔を実地に用い、1万人にのぼる傷病者を手術。クリミア戦争に軍医として参戦した後、アレクサンドル2世に謁見してロシア軍の旧弊を批判したことが皇帝の不興を買い、オデッサに左遷。のち官職を失って現在のヴィンニツァ市郊外の邸宅に住まい、そこで貧富のわけへだてなく治療を行う病院を組織したそうですが、作曲家チャイコフスキーも治療を求めてこの邸宅を訪れたということでした。1870年の普仏戦争では国際赤十字から招聘されて戦場での兵士の治療を行い、また1877–1878年の露土戦争に際しては、アレクサンドル2世の要請を受けて再び戦線に赴いた由。このように輝かしい業績を上げた医学者ですが、展示物中とりわけ強い印象を与えたのは、彼が人間の遺体をロシアの冬の野外の厳寒の中で凍らせ、それをスライスして画家に描かせたという出版物、またその切断された組織片のホルマリン漬けでした。なおこの人は、画期的な死体防腐処理法を考案、没後彼の遺体は弟子たちによりその方法で処理を施され（本人が希望したというのではないようですが）、現在も彼の旧宅である博物館からさほど遠くない小さな教会の地下で、ガラス越しにその姿を見ることができます。第2次大戦時、ソ連軍の退却に伴ってこの遺体は地下に埋められ、その折指などが傷んで、戦後に再処理が施されたとの説明



<ナロジチ地区ラスキ村にて>

がありました。旧ソ連圏内で同様に防腐処理を施された遺体はこの他にただ一つ、モスクワのレーニン廟で見られるのみということ。かつて「救援・中部」の奨学生だったAさんは、ヴィンニツァ医科大学の薬学部を卒業されたと思いますが、その大学はピロゴフ記念という名がつけられています。ジトーミルにおける郷土の偉人が、ガガーリンの乗り組んだ人工衛星を設計したコロリョフであるように、このピロゴフはヴィンニツァゆかりの著名人中随一人なのでしょう。

ヴィンニツァ市の反対の外れにある、私が泊めていただいた友人のご家族宅の周囲には国有林が広がっており、ちょうど新緑が芽吹いてきたところで、散歩にまことに適した環境でした。森は松と白樺の混交林だったと思います。この後ラスキ村に滞在された大工の遠藤さんが、「白樺はアイスクャンディの棒に使うくらいしか用途のない木なのに、どうしてウクライナではどこでも白樺を植えているのだろう」と不思議がっておられましたが、知人に聞いたところ、やはり美観のためということのようです。すがすがしい空気の満ちた森の中に、身寄りがないなどの事情のある子どもたち（元ストリート・チルドレンなども含む）が住みながら学ぶ寄宿制学校もありましたが、確かに精神衛生にはよいだろうと思うものの、いかにも「隔離」されている環境は子どもたちの成長にどう影響するだろうとも考えてしまいました。この森の管理人が友人のご家族のお隣さんで、放し飼いのニワトリやアヒルや七面鳥が彼の家の庭を歩き回っていました。（5月28日）

NPO法人チェルノブイリ救援・中部 2008年度収支報告書

(自 2008. 4. 1～至 2009. 3. 31)

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
寄付金	4,328,312	事業費	29,188,564
個人		医療機関支援事業費	850,000
一般	1,826,456	医療機器提供事業	850,000
ミルク	478,302	医薬品提供事業	0
奨学金	39,000	保健事業費	800,000
被災者	27,500	粉ミルク提供事業	800,000
維持会員費	500,999	被災者団体等支援事業	1,100,000
菜の花プロジェクト	1,200,883	奨学金事業費	0
その他	69,382	特別事業費	0
団体		ウクライナ農地改善事業費	24,677,493
一般	48,790	派遣費	0
ミルク	137,000	業務委託費	501,170
ボランティア貯金助成金	20,329,000	駐在員費	349,995
返還金	△ 3,217,655	支援輸送費	0
民間助成金	550,000	文通・クリスマスカード事業費	82,710
地方公共団体助成金	286,000	通信誌発行	819,600
雑収入	94,930	イベント参加費	7,596
受取利息	27,509	国内監査費	0
		キャンペーン	0
		管理費	3,733,272
		給料	1,716,580
		印刷製本費	208,950
		広告宣伝費	98,331
		旅費交通費	295,998
		会議費	35,825
		消耗品費	111,468
		通信費	155,283
		支払手数料	88,225
		諸謝金	40,000
		諸会費	46,080
		水道光熱費	21,483
		地代家賃	528,510
		租税公課	0
		雑費	37,065
		為替差損	492
		荷造り運賃	1,900
		修繕費	347,082
当期収入合計	22,398,096	当期支出合計	32,921,836
		当期収支差額	△ 10,523,740
前期繰越収支差額	19,325,210	次期繰越収支差額	8,801,470
収入総額	41,723,306	支出総額	41,723,306

上記期間の収支報告書を監査した結果、公正に処理されていることを証明します。

2009年 5月 9日

監査人

神野 美知江

1年を通して事務所の会計業務に携わる事ができたので、全体を把握しながら会計ソフトから打ち出される数字と戦い、無事収支報告書を提出することができました。
今後も頑張っていきたいと思っております。

(山本梨恵)

事務局便り

Dr.ドゥーリトル並みに牛馬にもてる「何でも建造家」の原氏と、通訳から物資調達、牛の落とし物対策委員長まで「何でもサポーター」の宮腰氏との、手に汗握る「ラスキ村通信」が、今号のボレーシェ特集（P4～P7）に載っている。これを読めば、助っ人氣質の血沸き肉躍る青年達なら、今すぐにもラスキへ馳せ参じたくなることだろう。そうそう、菜の花プロジェクトには熱いサポーターが必要だ。

サポーターには、ラスキ村通信の（ライブ）が読めるという特権がある。否それだけではない。現地の原さんたちと、もしかするとメル友になれる！—?? でも、**サポーター大募集（資金不足）**は本当の話。よろしくお願ひします！（山盛）

資金不足!! 緊急!! サポーター大募集!! ひと口 1,000 円(何口でもOK)です。

☆☆☆「ボラみ展」への出展決定! ☆☆☆

* 7月5日(日) 10:00~16:00 愛知淑徳大学: 星ヶ丘キャンパス 1号館 *

愛知淑徳大学にて「ボラみ展」が開催されます。私たちも出展させていただける事になりました!! 「ボラみ展」は、ボランティアをしたい人とそれを求める団体をつなぎます。

8月に行う「ディードゥフさんの講演会」のお手伝いをしてくれる人(ボランティアスタッフ)を募集します。たくさんの方の参加待ってま〜す!! (山本)

☆☆☆ **チェル救のオリジナルキャンディー**ができました。

昔なつかしい金太郎飴なのですが、デザインは「とどけ鳥」と「菜の花」。キャンペーングッズとして、いろいろなイベントで活躍中です。



編集後記

☆生まれて初めて腰痛になり、針とお灸を体験。なんと気持ちいいこと! ありがとう東洋医学。しかし、なって初めて分かった腰痛持ちの辛さ。今まで知らなくてごめんさない。(佳)

☆最近、NGO の理事の立場の重さを感じるようになった。活動の内容・運営方法、貴重な支援金の使い方など…。減少する資金を見つめて、自分が責任を持つ立場であることを以前にも増して感じる。(T)

☆時計が 6:00 を知らせてる。あれ?外が明るい!? 鳥の声が聞こえるし、爽やかな夜明けです。早起きでも寝付きが悪いわけでもありません。作業が長引いただけ…また徹夜しました。

トホホな日曜の朝です。「寝てよう日」にしたい…雨降りだし。(美)

☆日本人にとっての「911 事件」とは、1985 年 8 月 12 日に発生した「JAL123 便(御巣鷹山)墜落事故」だったといえるかも知れない。最近、その真相(ニ米政府による撃墜説)を聞く機会があった。あの事件で恐喝された日本政府は、直後の 9 月 22 日にプラザ合意(円高ドル安)を甘受し、バブルの創出と崩壊、郵政米英化、そして自由市場主義へと、アメリカ隷属路線を突き進むことになった。真実を学び、真実を広め、世界を変えたいと願うあなたに、カンジーの言葉を贈る。「見たいと思う変化に、あなた自身になりなさい。世界に変革を求めるなら、自分自身を変えることです。」(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473